

研究計画概要

助成年度・種別	2018年度 一般研究助成
研究代表者	相馬敏彦
所 属	広島大学
研究テーマ	DV 一次予防プログラムの深化に向けて; 当事者因子から対人環境因子への視点の拡張
研究計画概要	<p>親密な二者関係での暴力、DV は大きな公衆衛生問題である。このDV を社会的に抑制しようとするアプローチにはいくつかのものがある。本研究では「未然に防ぐ」ことに重点をおく一次予防の視点に立ち、それに必要な条件を追究する。</p> <p>本プロジェクトでは、特に DV のエスカレート・プロセスに及ぼす第三者の影響、つまり被加害当事者を取り巻く対人ネットワークがもつ潜在的な機能に焦点をあてる。これまでの研究において、DV のエスカレートには当事者だけでなく第三者の関わるリスク・保護因子も関与することが示されているからである。</p> <p>具体的にはまず、第三者はどのようにして DV のエスカレート・プロセスに影響するのかを実証的に解明し、一次予防の枠組みの中で受講者のもつ対人資源性にいかに働きかけるべきかを明らかにする。そして、受講者自身の被加害リスクの低下に加え、受講者を第三者と見立てその対人資源性の向上を射程に含めた一次予防プログラムを実施し、その効果を測定する。社会心理学の知見をベースとしながら、現場での実装可能性を踏まえた予防プログラムを展開することが本研究の最終的な目的である。</p>
選考委員からのコメント	<p>DV がどのようにエスカレートしていくかの研究では、DV の加害者・被害者の心理過程の研究やDV の加害者と被害者の関係の研究が今までの大半の研究であった。しかし、相馬氏の今回の調査研究は、DV 当事者が地域においてもっている社会関係資本の量的・質的把握からDV がエスカレートしていく際の危険因子・保護因子を析出するという試みである。成果が大いに期待できる調査研究である。</p>